

離婚の思想文化史：
絆をほどいて

凶像文化と法制史からの
アプローチ

【結婚】

1. 独身でいられる方が結婚しているよりも、人間としてすぐれている。
2. 肉体の交わりそのものは不浄だが、結婚による肉体の交わりは正しいことである。
3. 結婚したい男女の当事者同士が合意すれば、結婚は成立する。
4. 結婚は公の機関に届け出をすればよいのであって、宗教がらみのものではない。
5. 結婚したい男女の当事者同士の宗教や宗派がことなっているとしても、結婚をすることができ。

【離婚】

1. 結婚は神を介して行われる男女の一体化であるから、人間の力では結婚の絆を解消することができない。
2. 離婚は、妻が不倫を犯すか、どちらか一方が失踪した場合にできる。
3. 夫が暴力を振るっても、妻はそれに堪え忍ぶべきで、離婚の理由にはならない。
4. 妻が不倫をした場合には、夫は不倫の相手に妻を売ることができる。
5. 結婚は愛情があって成り立つから、愛情がなくなれば離婚してよい。

【結婚】

1. 聖パウロ
2. アウグスティヌス。
3. ラテラノ公会議（1215年）
4. ルター
5. 聖パウロ

【離婚】

1. 聖トマス・アキナス
2. イエス。教会法
3. 17世紀の説教家たち
4. 16-18世紀のヨーロッパの慣習
5. ミルトン、プーエンドルフ



⦿ Augustus Egg, Past and Present (1858)



⦿ Thompkin
Matteson, The
Scarlet Letter
(1860)



George IV and
Caroline Amelia
(1795)



- 居酒屋？
- 兵士の愛？
- Hic est Hollanda?

VERMEER VAN DELFT,
Jan
Officer with a
Laughing Girl
c. 1657
Oil on canvas, 50,5 x
46 cm
Frick Collection, New
York



Vermeer,
Johannes
Brieflezende
vrouw
ca. 1662-ca.
1663

講義内容

- ◎ 1. カトリックとプロテスタント
- ◎ 2. 17世紀イングランドとニューイングランド
- ◎ 3. 世俗化、啓蒙主義、フランス革命
- ◎ 4. 近代初期の社会における正式の離婚と非公式の離婚
- ◎ 5. 結婚挫折の意味とその文脈
- ◎ 6. 19世紀：自由主義とその反動
- ◎ 7. 社会問題としての離婚：1850年-1914年
- ◎ 8. 20世紀と大量離婚の勃興
- ◎ 9. 離婚増加をどう説明するか：1870年代-1990年代